

二七日

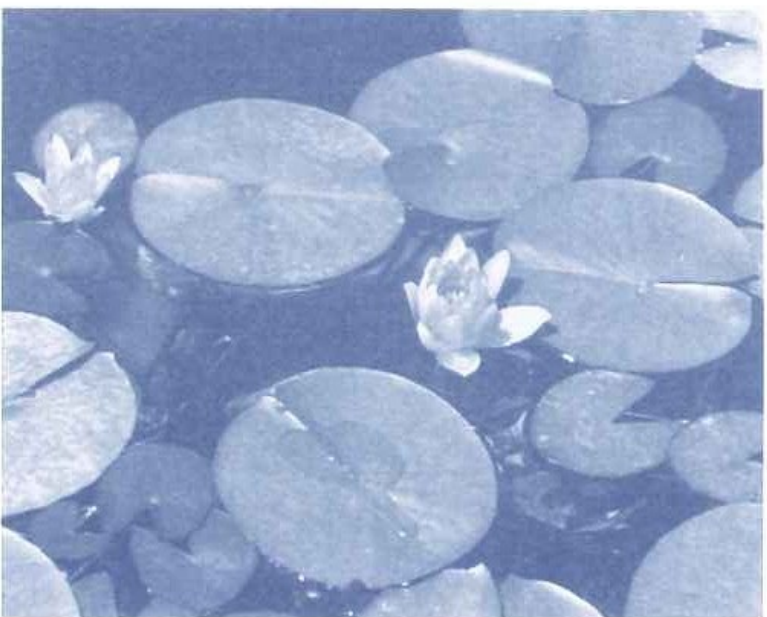
ふたなぬか

「地獄極楽」といえば、源信和尚（平安中期の高僧）浄土真宗の七高僧のお一人）があらわされた『往生要集』です。この書物が世に出ることで、地獄のおそろしいありさまを描いた地獄变相図や、多くの菩薩をともなった阿弥陀如来の来迎図がさかんに描かれるようになり、わが国の浄土教美術に大きな影響をあたえました。この『往生要集』には、地獄のむごたらしい様相が、ことこまかに述べられています。

まず、地獄は大別して熱地獄と寒地獄の二つがあります。なかでも凄惨なのが熱地獄です。

地獄極楽

等活・黒繩・衆合・叫喚・大叫喚・焦熱・大焦熱・阿鼻地獄の八つの熱地獄です。また、これらの地獄は有限の世界で、いつ



かは脱することができるとされていますが、気の遠くなるほどの長期間にわたり、言語を絶する苦しみを受けることと説かれます。死ぬほどの苦しみののち、すぐ生きかえって再びおなじ苦を受ける——このくりかえしが地獄です。そして私たち凡夫はみんな、この地獄行きの資格をもち合わせているのです。その私たちをお浄土に救い取るために仏となられた阿弥陀如来の、お徳の大きさがあらためて偲ばれます。